

季刊マーメイド

逗子市立図書館報
第17号
2017年8月1日発行
逗子市立図書館
逗子市逗子4-2-10
046(871)5998
<https://www.library.city.zushi.lg.jp>

逗子・夏の賑わい

～海上ページェント・逗子水族館～



逗子海岸に出現した海上ステージで会期中さまざまな催しが
行われました 『逗子広報』昭和32年21号より

逗子の夏はいつの時代も、活気
にあふれ、それぞれの夏の愉しみ
方があります。今回は、昭和のよ
き時代の夏の思い出を振り返りま
す。



海上ページェント

逗子海岸の海上ページェントは
昭和32年夏に、逗子在住の読売新
聞社主、正力(しよりき)松太郎
氏の発案で始まり、以後昭和44年
までの毎夏、13回開催されました。
遠浅の逗子湾上に鉄製パイプで
約50坪の舞台を作るという斬新
な発想で、ページェントは逗子の
夏を大いに盛り上げました。
海上ステージは、長さ30mの棧
橋と舞台が華やかに裝飾され、夜
間には照明が灯り、幻想的な舞台
となりました。昼間の焼けつくよ
うな海から一転して、暑さを忘れ
させる夜の逗子海岸は、涼味漂う
ものとなったようです。

会期中には盆踊りコンクールや、バレエの公演、乙姫コンテストなども行われました。オーブニングセレモニーでは、豪華なデコレーションを施した装飾船が逗子湾いっぱいにパレードし、県警音楽隊の演奏や打ち上げ花火でページェントの開催を祝いました。

回を重ねるごとに、プログラムの内容は趣向を凝らしたものになっていきました。「アベックボート競漕(きょうそう)」「逗子片瀬間遠泳大会(15km)」「海浜納涼まんがまつり」「西瓜割り大会」「アメリカン大西部サーカス野外ショー」などが催され、今では見る事ができないような、懐かしくもあり、ユーモラスな企画がたくさんあったようです。

第4回海上ページェントに訪れた海水浴客は114万人にもなり、海岸が人で埋め尽くされ、その様子は左頁写真を見ても驚くばかりです。

(2016年夏の海水浴客は約33万人)



第11回のロゴマーク

当時を知る方に貴重なお話を伺うことができました。

「…海岸はとにかく人で溢れかえっていました。遠方から来る人より先にと、地元の人は早朝パラソルをかついで海へ出かけ、場所取りをしたものです。子どもを海で遊ばせていても、砂浜で親の待つ

場所が見つからないこともしばしば。迷子の数も相当いたのではないでしょうか。泳ぎ疲れての帰り道にはまた、パラソルをかついでのんびり家に帰ったものです…。」



「…海にはよく、ハワイアンのバンドが来て演奏をしていました。子どもたちは、催しのないときにステージから海に飛び込んだり、足場につかまり、体を浮かせ波にゆられて遊ぶのに夢中でした。夕暮れ時にはステージの端に座り、海の上で足をぶらぶらさせておしゃべりを楽しみました…。」

当時の子どもたちには、半世紀経った今でも、色褪せない素敵な夏の思い出として心に残っているようです。



↑ 第9回前夜祭市中パレード



↑ 逗子駅でバスに群がる人々



↑ 逗子海岸での混雑の様子（中・下）



↑ 第2回海の女王表彰式の様子



《海の人出》
ひところ、詩歌のリーフレットを気ままに出していたことがある。その昭和三十四年の記事に、「八月二日（日）逗子海岸の人出はものすごかった。五分おきくらいに着く電車はどれもすしづめ、自動車の列は蜿蜒（えんえん）と続き進まない。…（中略）…逗子広報は二十八万と報じている。泳ぐとこあんなのかな、と案じながら近所の子らは出かけていった。」と書いてある。

郷土史家・森谷定吉氏『不如記・文学作品に見る「逗子」に寄せて』には、当時の様子が記されています。



逗子水族館

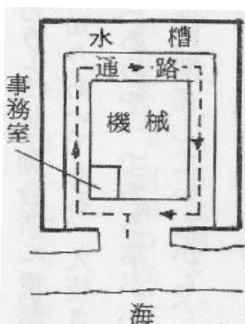


海側からの逗子水族館の眺め
『セピア色の三浦半島』より



昭和4年春に開館した逗子水族館は、披露山すその浪子不動近くにありました。外観は西洋館づくりで、160×180坪位の正方形に近い建物でした。新宿で八百屋を営んでいた高橋与助氏が社長となり、油壺にある水族館に通い、水族館経営のノウハウを学んで、1株50円で数人の株主から資金を募り開館しました。

水族館にどんな種類の魚がいたのか資料は残っていませんが、目の前の逗子海岸にパイプを通し、海水を取り込んで、水槽に水を送っていたようです。



逗子水族館内部図
『手帳 6』より

逗子ゆかりの作家、中里恒子の随筆集『常夏』にも逗子水族館のことが書かれています。

《水族館》

逗子にも以前は浪子不動へ行く海邊の山ぎはに、まるで明治時代の村役場かなんかのやうに、古ぼけた西洋館作りの水族館があつたけれど……(原文ママ)



逗子小学校の児童が先生に引率されて見学に来たりと、夏には大変賑わったようです。逗子水族館は数年続き、昭和11年頃までは建物があつたということです。

主な参考文献

・海上ページエント写真提供 逗子市観光協会

・『逗子広報1』34『逗子市編 31.Z 1-52

・『逗子海水浴場概況報告書』 逗子市

68.Z 1-64

・『逗子雑記 逗子の季寄せ 逗子の

文学』森谷定吉著 モリヤ 29.Z も

・『明治大正昭和年表―逗子の三代史

―』手帳の会著 手帳の会 26.Z x

・『セピア色の三浦半島』辻井善弥著

郷土出版社 P 213.7 ッ

・『手帳6』手帳の会編 手帳の会

05Z 7-6